

知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会

NO. 17



2020(令和2)年2月20日に、知床世界自然遺産地域科学委員会の令和元年度2回目の会議が札幌市(かでる2・7)で開催されました。今回の会議では、

- 1)各ワーキンググループ等(科学委員会の下部組織 / 特定課題ごとの会議)での検討状況、
 - 2)第43回世界遺産委員会(※)における知床に関する決議・勧告への対応方針、
 - 3)遺産地域の自然環境や社会環境の長期モニタリング計画における評価方針
- などが話し合われました。



※世界遺産について話し合うための国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の委員会。

必見!
TOPIC

<世界遺産委員会からの気候変動に関する勧告>

2008年7月:世界遺産の価値に対する気候変動の影響を最小限にとどめるための順応的管理戦略を含んだ、知床の「気候変動戦略」を開発すること(要請)。

2017年7月:締約国に対し、~(略)、気候変動に関する考慮、~について、最新の情報を将来の委員会に対する報告の中で提供するとともに、IUCN(※)によるレビューのため、~提出することを要請する。

2019年7月:締約国に、気候変動の資産に対する影響のモニタリングを継続し、資産のOUVへのいかなる影響も最小化するような適応管理戦略の策定を奨励する。

(※)国際自然保護連合。世界遺産委員会の諮問機関。

上記は世界遺産委員会からの知床に対する過去の勧告の一部を抜粋したものですが、これらに対応するのは大変な難題です。一方で今回の科学委員会では、外来種の高山帯への侵入防止など、小さくても今すぐできることをしっかりやることが重要との助言も専門家からありました。これは、気候変動による影響を受けやすい高山植物が更に追いつめられることを防ぐため、外来植物を高山帯にこれ以上持ち込まないことや、既に侵入している外来植物を除去することによって、気候変動への抵抗力の高い、健全な生態系を維持することにつながるとの考え方に基づいています。



羅臼岳登山道沿いのセイヨウタンポポ(外来種)

知床世界自然遺産地域
科学委員会

エゾシカ・ヒグマ
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

適正利用・エコツーリズム
検討会議

河川工作物
アドバイザーミーティング



気候変動への適応戦略（知床版）の策定に向けて

世界遺産の保全状況をチェックする世界遺産委員会からは、2008年以来、気候変動が知床の遺産としての価値に与える影響についてのモニタリングや、気候変動への適応戦略の策定を求められています。知床のOUV（Outstanding Universal Value：顕著な普遍的価値）の維持のために重要な「海氷」が注目されています。



知床岬と流氷



流氷ウォークを楽しむ観光客

今回の科学委員会では、国立環境研究所から気候変動影響予測の専門家（小熊宏之博士）をお招きし、気候変動に対して最も弱いとされる山岳生態系（高山帯）のモニタリングや将来予測の具体例について、大雪山国立公園などの取り組みを紹介いただきました。気候変動により、高標高地ではハイマツ群落が拡大して高山植物のお花畠が縮小する一方、低標高地ではハイマツがササとの競争に負けて衰退し、ササ群落に置き換わっていく可能性が大雪山等の先行研究では示されています。知床でも現行のモニタリングを継続するとともに、将来予測や適応戦略の策定に向けた検討が必要です。

ところで、気候変動による影響には、災害の増加やたくさん獲れる魚の種類の変化など、地域の生活に深く関係するものも含まれています。今後は知床世界自然遺産地域内に限らず、地域全体が気候変動に対して適応していくことが必要となります。



知床硫黄山のハイマツ帯



ハイマツの実・鳥や動物の重要な餌

会議や知床世界自然遺産地域に関する様々な情報を
もっと知りたい方はコチラ

知床データセンター
<http://shiretoko-whc.com/index.html>

で検索！

■問合せ先 ■ 環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行：環境省 / 制作：公益財団法人 知床財団 / 発行：2020年3月

